

要支援者から考える減災

四国 愛媛県 松山市 課題

『災害時の要配慮者・避難行動要支援者の安全な避難誘導、福祉避難所への収容について』を考えて

南海トラフ巨大地震などの大規模な自然災害の発生が懸念されており、地元松山市でも各種防災対策を行っています。その中でも障がい者など要配慮者・避難行動要支援者は、自ら避難することにより多くの困難を伴います。要配慮者・避難行動要支援者の避難支援は、自助及び地域の共助が必要となります。日頃から当事者と一緒になった活動を心がける事により、顔の見える関係を構築し少しでも減災に繋がりたいと考えました。

アイデア

- みんなで一緒にいつでも気軽に防災訓練の実施
- 音声アシスタント「助けてをアシスト」の開発

アイデアの内容・背景・実施

a) 本アイデアでは、要配慮者・避難行動要支援者の中で障がい者に重きをおいて、マッピング・パーティー、Open Street MapとMapillaryの組み合わせなどのICTの仕組みを活用したイベントを隔月のペースで実施します。

地域の住民が得意分野でフォローしながら、イベントを定期的実施する事により、顔が見える関係を構築していく過程で、要配慮者・避難行動要支援者の避難支援を地域ぐるみで考えるきっかけになり、それがいつでもどこでも防災訓練を行ってる効果になればと考えました。

日頃から避難経路を歩きながらチェックする事により、課題を抽出し対処していき地域の減災に繋がります。

Code for DOGOのメンバーでICTはフォローし地域づくりの団体、障がい者支援の団体と協働で地図の精度を上げ、使いやすくしていきます。

b) とっさの行動として、人は声をあげる事が多いと思いますが、要配慮者・避難行動要支援者の方々が発する声を拾い上げやすくするため、スマートフォンやスマートスピーカーなどのデバイスを活用して、Googleアシスタントの様な会話形式のアシスタントの仕組みを考えました。対話のプログラムはCode for DOGOのメンバーが開発し、対話の内容について、障がい者支援団体の協力で会話の精度を高めていきます。

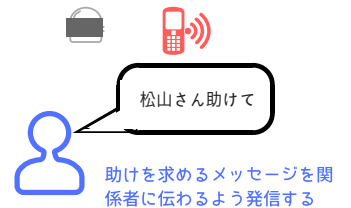
要配慮者・避難行動要支援者の方の状態に合わせ、あらかじめアシスタントのカスタマイズを行い、スマートスピーカーやスマートホンに登録（データを紐付）しておく。

オクケーグーグルやアレクサ、クローバなどトリガーになる言葉も、支援者のお名前（例：松山さん）に置換しておく事で、違和感なく助けを求められるようにしておく

電話を探す余裕がない事も想定されるので、叫んでもトリガーが惹かれる事を考えておく。



支援者の方が、他の電話にかかりっきりになったり被災して電話に出られない事も想定されるのでメッセージをツイートする（非公開アカウントとして関係者のみがアクセスできる設定を行っておく）事も出来る様にする。



用語の解説

マッピングパーティーとは、歩いて街の情報を集め、インターネット上で自由に編集できる地図「オープンストリートマップ」に書き込むイベント。災害時に使える施設や避難経路、バリアフリー、観光スポットなど特定のテーマに沿って情報を集め、共同で地図を作成する。2004年に英国で始まり、日本を含む世界各地に広がっている。

出典：知恵蔵mini

OpenStreetMap(OSM)は、道路地図などの地理情報データを誰でも利用できるよう、フリーの地理情報データを作成することを目的としたプロジェクトです。誰でも自由に参加して、誰でも自由に編集でき、誰でも自由に利用する事が出来ます。

出典：openstreetmap.jp

Mapillaryとは、スウェーデンのマルメにあるMapillary AB社が開発した位置情報を付加した写真共有サービスである。クラウドソーシング方式で街道に限らず世界中の場所を投稿できる。

出典：ja.wikipedia.org

GoogleアシスタントはGoogleが開発したAIアシスタント。2016年5月の開発者会議で発表された。<中略>Googleアシスタントは双方向での会話が可能である。

出典：ja.wikipedia.org

お読みいただきありがとうございました。あてはまるご感想あれば、チェック をお入れください。

- もう少しひねりが必要
- この取り組みを応援してみたくなった
- この取り組みを応援しに、愛媛に行くことにする

CODE FOR DOGO